

あゆみ通信

VOL. 114
 あゆみの会(真宗大谷
 派大阪教区第2組同朋
 の会推進員連絡協議会)
 会長 浪花 博
 広報 本持 喜康

6/26 あゆみの会例会は公開講座で

いのちとは何?



梶原 敬一先生

人の生き死にというところに立ち「いのち」を見ますと、その持っている力を感じるのです。生きることを支える力、その力によって生かされているということです。これがいのちを自分自身の問題としていく時に押さえなければならぬ大切なことだと思うのです。いのちとは私たち一人ひとりが生を賜り、生という形で有限な時間が与えられるので、その有限な時間というものを通して私たちに個人を超えたものを同時に与えているのです。それは先ほど無量寿と言いましたが、もう一つのいのちに対して、出遇いの時に自分自身のいのちを捨てさせる働きを無量光と呼んでいますよね。無量ということによっていのちは時間的な限りや個人という存在をも超えてその外に広がっているもの。そういうものがいのちだとみていくべきではないかと思うのです。(後略)
 (梶原敬一「生きる力」から)

第2回例会公開講座

お寺に足を運ぶということが、いかに大事であるかということに気付かされると、出かけるのが楽しくなる。少しでもそんな機会を持ってもらおうと、話し合っただけで例会を公開講座にした。

多くのご門徒さんを始め、ご住職や寺族の皆さんにご参加をいただきたい。

今回の講師は第2組の推進員養成講座でお世話になった三好泰紹先生(22組蓮正寺)である。修了された皆さん、お出掛けを。



日時 **2018年6月26日(火)**
 午後1時30分～4時
 会場 了安寺(天王寺区生玉寺町)
 講師 三好 泰紹先生
 (22組 蓮正寺)

参加費 無料
 参加される方は、本持までご連絡ください。

これからの行事予定

●第2組聞法会
 日時 7月12日(木) 午後2時
 会場 唯専寺(浪速区敷津)
 講師 新田修巳先生

●第2組聞法会
 日時 8月25日(土) 午後2時
 会場 光照寺(天王寺区上汐)
 講師 稲垣 直来先生
 (17組 徳因寺)

第2組聞法会案内

2013年修了の第3期第2組推進員養成講座の講師をお願いした松山正澄先生が登場です。3期修了の皆さん、同窓会ですよ。

日時 **2018年6月12日(火)**
 午後2時～
 会場 西教寺(阿倍野区阿倍野元町)
 講師 松山 正澄先生
 (19組 正受寺前任職)
 参加費 500円
 持参するもの、念珠、赤本等

鯉のエサ10円

朋友N氏は、熱心な聞法者である。彼が時々紹介するたとえば「言い得て妙」で、なかでも「鯉のエサ10円」は秀逸である。曰く、鯉の泳ぐ池で、10円を投げた人がいる。ふと見ると、傍の看板には「鯉のエサ10円」とある。その下には小皿に乗った「麩」が置かれている。「そんなことは無いやろ」と、最初聞いて思った。でも、よく考えると、人は思い込みで、突拍子も無いことをするという比喩であることに気づく。人間は分別と思い込みで、時として、平気で思いがけないことをする。思い込んだら命がけ。平気で人を殺したりする。人の心には善と悪があり、一人の人間が、その時の考えで、いろいろなことをする。「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」そんな自分であるということに気付きなさいと、親鸞聖人は言われる。胆に命ずべきなり。(本)

南無阿弥陀仏にこの身をまかせる

第2組聞法会に参加して

細川悦彦(佛足寺)



2018年5月12日(土) 午後2時から西成区の行圓寺(竹内博明住職)に於いて、第2組聞法会「共に学ぶ『正信偈』」がスタートし、第2組内の住職、寺族、門徒と推進員25名が参加した。講師はお馴染みの新田修巳先生(平野区・正業寺)で「帰入功德大宝海 必獲入大会衆数」について学びました。

先生は「帰入功德大宝海」について、「帰」は帰依であり「入」は回入(えにゅう)。



「功德大宝海」は「南無阿弥陀仏」名号であり、功德に満ちた大きな宝の海を意味する。私たちは近しい人の死に会うと深い悲しみに捉えられるが柳田邦男氏は亡き人の「死後生」と言っておられる。それは肉体的ないのちではなく、精神的ないのちのことで、悲しみを乗り越えて生きる喜びを実感させ、人生を豊かに膨らませてくれる。

また、大峯顕氏(哲学者で俳人の僧侶)の「花咲けば い

のちひとつということを」紹介され、人間は自我よりも大きな世界に居る。肉体は有限であるが、一如のいのちを共に生きていと感動する、それを桜が教えてくれるという意味だと。

「南無阿弥陀仏」と御名を称えることは懐かしい声を聞き無量寿のいのちに行くことが一番大事であり、辛さや悲しみに眼をそむけずに直視していく。その中から生まれるもっと深い所にある豊かさ、無量寿のいのちを共に生き合うことの喜びを感じお念仏を申して生きて行こうと話された。



次に「必獲入大会衆数」とは、私たちがお念仏を申す時、お浄土で阿弥陀仏が今現在説法をしておられる会座に菩薩方と共に連なることができる。そこはすべての人が参集できる大きな会座で、お一人おひとりと共に大切な人として見ていく視点を持つ。

昭和12年に吉野源三郎さんが書いた『君たちはどう生きるか』には、主人公の中学生コペル君に、全世界網の目のように繋がりにあるのだから、



殺し合ってはいけない。また、植物が光に向かって成長を続けているように、自分の中にもそのようないのちを感じると語らせている。



曇鸞大師の「讚阿弥陀仏偈」の中に「仏光よく無明の闇を破す。(中略) 光明一切の時、あまねく照らす、かるが故に仏をまた不断光と号す。聞光力のゆえに心断えずしてみな往生を得しむ」とある。光とは名号である。御名を称える時、立ち上がっていく力が与えられる。闇を破るとは、法蔵菩薩が私の中に誕生して下さり、歩みを共にしてくださることである。そのような教えに出会うことができることが大きな功德をいただくことであると話された。終わり。

(今回も、法話のまとめは細川克彦氏にお願いした。今号の発行に大きく貢献くださったことに感謝である。事務局)

「安倍9条改憲 NO! 署名にご協力ありがとうございました。」

平塚淳次郎先生(アレンネルソン元代表)から、依頼を受けて、藤井善隆前住職と竹内登紀子坊守を通してお世話になりました。